

当館の所蔵資料から

京都に関する本～入門編

Q 「京都に関する本がありますか？」

A 「当館では 1 階南側の書架にまとめています(書架番号 9～14)。

そのなかから、お問い合わせの際によく使用するいくつかの資料をご紹介します。

資料の解説は各資料の記載および「京都大事典」(淡交社 K/291.62/Ky6)を参考にしました」

「?????」

わからない時は、とにかく百科事典を引いてみるものですが、
京都の百科事典として利用できる資料です。

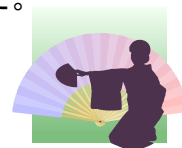


「京都大事典」(淡交社 K/291.62/Ky6)

京都市とその周辺(宇治市・向日市・長岡京市・八幡市・大山崎町・久御山町)を対象に、主要な事項を五十音順に配列して解説を付したものです。約 7,200 項目掲載されています。解説文の中の語句で、別に項目が立てられているものには*印がつけられていますので、次々と関連事項を把握していくことができます。

「京都大事典 府域編」(淡交社 K/291.62/Ky6/2)

「京都大事典」の姉妹編として、平安建都千二百年を記念して 1994 年に刊行されました。京都市を除く京都府域に関する事項が、約 3,700 項目掲載されています。



「京都府の地名 日本歴史地名大系 26」(平凡社 K/291.62/Ky6)

「京都市の地名 日本歴史地名大系 27」(平凡社 K/291.62/Ky6)

調べたい事柄に関連する地名がわかっている場合は、巻末の索引を利用してその土地の情報を得ます。土地の由来・歴史がくわしく紹介されていますので、お目当ての事柄に触れた記述があったり、関連する人物の記述があったり、いろいろと豊富な情報が掲載されています。土地に関連する古文書の紹介もあります。

「京都府 上巻 角川日本地名大辞典 26-〔1〕」(角川書店 K/291.62/Ka14/1)

「京都府 下巻 角川日本地名大辞典 26-〔2〕」(角川書店 K/291.62/Ka14/2)

上巻は、総説・地名篇からなっており、府内の地名が五十音順に記載されています。同じ名称でも所在地が異なる場合がありますので、記事を読み比べて、調べたい事柄の地域を限定するのに役立ちます。

下巻は、地誌編・資料編からなっており、市町村別(京都市内は区別)に現況や沿革等が記載されています。

「京都府資料目録 昭和 58 年 8 月末日現在」(京都府立総合資料館 K/025.81/Ky6)

京都府内及び各地域に関する図書文献(雑誌、新聞、地図、文書を含む)、約 18,700 点の目録が掲載されています。掲載資料の多くは京都府立総合資料館が所蔵しています(当館でも所蔵している資料があります)が、一部、大学の図書館が所蔵している資料もあります。

巻末に件名索引がありますので、調べたい事柄をキーワードにしますと、関連の資料が見つかります。

「京都府関係雑誌論文目録 昭和 44 年 12 月 31 日現在」(京都府立総合資料館 K/027.5/Ky6)

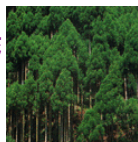
京都府開庁 100 年の記念行事の一環として刊行されました。京都府に関する雑誌論文約 13,000 件を収録しています。巻末に、地域索引・事項索引・著者名索引がありますので、関連の論文を探することができます。



京都府の鳥
オオミスナギ
ドリ



京都府の花
しだれ桜



京都府の木
北山杉



京都府の草花
嵯峨ざく



京都府の草花
なでしこ

さすが千年の都、古代からのことも…

「京都・山城寺院神社大事典」(平凡社 K/185.91/H51)

古代から近世の山城国、平安京造営後は京・京都と呼ばれるようになった地域の、寺院・神社が、現存・廃絶を問わずに掲載されています。

「京都府の地名」「京都市の地名」の関係項目を基礎に、増補、修正、加筆されたものです。

「京都市姓氏歴史人物大辞典 角川日本姓氏歴史人物大辞典 26」(角川書店 K/288.1/Ky6)

古代から近現代まで、京都を舞台に歴史的に活躍した人物、あるいは姓氏が、約 8,000 項目掲載されています。巻末の付録資料編には「文献所見近世町人一覧」があります。江戸時代に刊行された京の名所案内や買物案内、覚書に記載された人物の名が、職業別に分類して列挙されています。

「京都名家墳墓録 附・略伝並に碑文集覧」(村田書店 K/281.02/Te43)

大正 11 年刊の復刻版。山城国内に在る諸名家墳墓の所在を明らかにしたものです。収録項目は、天皇、皇族をはじめ、武将・僧侶・文人・志士・画人・俳人、等々、4,800 名を超えています。巻末に「索引 御陵墓」「索引 名家」「寺院別索引」があります。

江戸時代からのことは…

「慶長昭和京都地図集成 1611 (慶長 16) 年～1940(昭和 15)年」(柏書房 KE/291.62/Ke21)

京都の代表的地図が、慶長 16 (1611) 年から昭和 15 (1940) 年まで 22 枚、時代を追って見ていくことができます。

「古い地図はありませんか？」と尋ねられた時に、紹介しています。



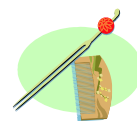
「新修京都叢書 全 25 巻」(臨川書店 K/291.62/Sh69)

江戸時代に刊行された京名所案内や地誌をまとめて叢書にしたものです。

昭和 8 (1933) ～10 年に刊行された「増補京都叢書 全 20 巻」を改編し、全 23 巻として刊行されましたが、第 23 巻 (索引・古地図集) を、第 23 巻 (古地図集)、第 24 巻 (人名索引)、第 25 巻 (地名・件名索引) として、現在、全 25 巻として刊行されています。

初版「京都叢書」は大正 3 (1914) ～6 年、和装本で 53 冊、洋装本では 16 冊で刊行されています。

「京都大事典」には「京都叢書」の項目があり、収録作品名には * 印がついています。



「新撰京都叢書 全 12 巻」(臨川書店 K/291.62/Sh69)

「新修京都叢書」の続編にあたるもので、「新修京都叢書」に未収録の、元禄以降昭和初期にかけて記された資料を集めたものです。本巻 10 巻、古地図集 1 巻、索引 1 巻 (人名索引・地名索引) の全 12 巻で構成されています。

こんな資料も…

「新撰京都名所図会 全 7 巻」竹村俊則著 (白川書院 K/291.6/Ta63)

「昭和京都名所図会 全 7 巻」竹村俊則著 (駿々堂出版 K/291.6/Ta63)

「今昔都名所図会 全 5 巻」竹村俊則・文 浅野喜市・写真 (京都書院 K/291.6/Ta63)

安永 9 年 (1780 年) に刊行された「都名所図会」を模した、昭和 30 年代の京都名所案内記です。

「新撰京都名所図会」が刊行され、その改訂増補版が「昭和京都名所図会」です。

「今昔都名所図会」は、「都名所図会」や「拾遺都名所図会」の挿画と、同じ場所の写真が並べられています。「都名所図会」や「拾遺都名所図会」は「新修京都叢書」に収められていますが、江戸時代の出版当時の和装本も現存しており、当館にも所蔵があります。

京都に関する資料は京都府立総合資料館が重点的に収集しています。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1 の 4

TEL 075-723-4833 FAX 075-791-9466

ホームページアドレス <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

